

福島第一原発揚水井でポンプ停止が急速に広がっている

トリチウムが直接海に流れ込み海を汚染

2015. 6. 28 美浜の会

福島第一原発で、汚染された地下水を建屋の山側で汲み上げている12の揚水井で、藻などが原因で汲み上げポンプが停止する事故が頻発するようになってきている。

当初は南側のNo.12, No.11, No.10で停止していたのが、次第に北側に広がり、ついにNo.5にまで停止が及び、しかも頻発するようになってきている。

汲み上げた地下水のトリチウム濃度は、はじめのうちはNo.12で顕著に高かったが、今ではNo.10が最高となっている。No.10は広い範囲をカバーしているため、地下水内のトータルなトリチウム量は減るどころかむしろ増えていると見なせる。その原因はまったく解明されていない。ポンプの停止で直接海に流れ込む量は増え、海を汚染している。

